

砂川ロータリークラブ例会での桜に関する卓話

令和元年5月8日（水）、当社の技術顧問の木戸口和裕樹木医が、砂川ロータリークラブ例会（会員約40名出席）で、「北海道の桜、その植栽・保育管理、そして地域振興へ」と題して25分の卓話を行いました。

砂川ロータリークラブでは、「ペンケ歌志内川のさくらづつみ」で、植樹事業を昨年度から行っており、今回、卓話による植樹への助言や桜の造詣を深めるため、同クラブ青少年奉仕委員会からの要請によるものです。卓話はパワーポイント使用のため、パソコン設定に詳しい当社の山下拓人も同行し、卓話のサポートをしました。



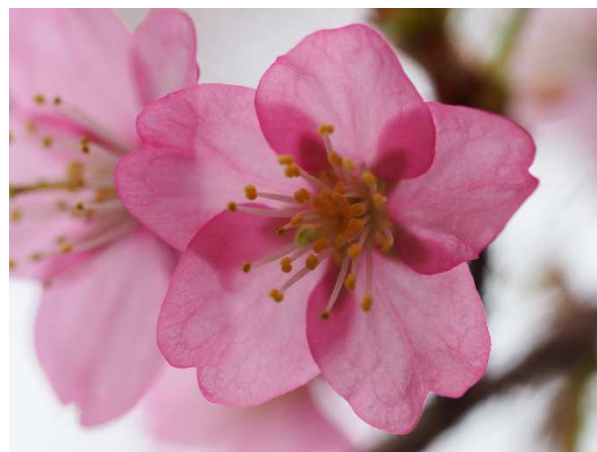
砂川ロータリークラブの植樹事業



卓話会場



卓話状況



大山桜（蝦夷山桜）

卓話の主な内容は、①大山桜（蝦夷山桜）、霞桜など、北海道でよく見られる野生の桜、②オオシマザクラ系の八重の桜などの多様な栽培品種の遺伝子資源の保管庫となっている北海道松前の桜、③浅利政俊氏が「松前町桜保存子供会」を設立し、子供たちと一緒に保育や栽培品種づくりを行っていることから、松前は木育の一丁目一番地であると考えていること、④密に桜の苗木を植えない、「てんぐ巣病」など病害への対応など、植栽・保育技術等、⑤気根によって見られる桜の再生能力、⑥桜の集植地やスイーツへの素材としてのツルコケモモの活用（道立林業試験場提案）など、地域資源を生かした地域振興、です。

この中で、桜は植えた後の保育管理が重要であることを強調してお話しさせていただきました。また、桜の樹勢回復にはフルボ酸の植物活性剤フジミン（販売元：サンスイ・ナビコ株）が強力な助っ人として期待できるのではないかとお話ししました。

なお、卓話の冒頭での会社紹介では、グループ会社である国土防災技術(株)が開発した大雨時の避難行動訓練教材 EVAG (イーバグ) についても紹介し、これを活用した CSR 活動の展開など防災のソフト対策にも取り組む所存であることをお伝えしました。



教材開発の背景

日本では近年なる大規模自然災害を連発して、ソフト対策関連の法律やガイドラインが整備されてきました。これら公助の取組が多様化するコミュニティで機能していくには、災害時に自分で考えて行動できる人を育てる「防災教育」が重要です。EVAG (イーバグ) は災害時の避難行動を疑似体験することで住民目線で地域の課題や様々な気づきを得られる教材です。

気象の変化

台風の大型化
集中豪雨
災害の同時多発
災害の大規模化

想定外の災害

社会の変化

多様なコミュニティ
・少子高齢・世帯構成化
・外国人労働者の増加
都市機能の拡大
・土地利用の多様化
・インフラの集中管理

対象の多様化

防災力を高める本質的な
仕組みづくりが必要



教材の特徴

災害時の避難行動を考える

EVAG は災害時の避難行動を考えることに特化した教材で、「情報を得た住民が災害時にどのような行動をとるか」を考えることができます。

避難行動訓練 EVAG

災害前	災害時	避難後
避難準備	避難行動	避難所行動

参加型・体験型の学習ツール

教材では様々な事情を抱えた住民の立場になるロールプレイと、災害を疑似体験するシミュレーションを組み合わせ、災害時の避難行動の難しさを実感することができます。



EVAGリーフレット